

2021年度第2四半期
テレフォンカンファレンスにおける質疑応答（2021年11月11日開催）

※テレフォンカンファレンス開催日（2021年11月11日）時点の情報に基づく内容です。

1. 2021年度第2四半期決算に関して

質問	回答
第2四半期決算で営業利益などの利益項目を上方修正した理由を教えてください。 期初、エンジニアの稼働率低下による費用増を見込んでいたと思うが、稼働率が改善しているのか。	総合エンジニアリング事業で、モザンビークのFLNGやアルジェリアで完工を迎えた案件、国内の複数案件で採算改善があったことによるもの。機能材製造事業も、期初予想よりマーケットの需要が回復したことで、ファインケミカル製品を中心に売上高・利益を確保できた。 エンジニアの稼働率については、FSやFEED案件の受注に鋭意取り組んでいるが、現状では明確な稼働率改善には至っていない。
営業利益が前年同期比で減益になった理由を教えてください。	前期第2四半期は、過去に完工したLNG案件で一過性の利益が大きかったため、今第2四半期は前年同期比では減益となった。
原材料や資機材価格高騰の影響を教えてください。	直近受注した案件や今後受注する案件は、資機材価格の高騰を織り込んで受注した（受注する）ことから特段問題は無いと考えている。 一方で1年から3年前に受注した案件は動向を注視しているが、LNGカナダでは調達役務はほぼ完了しており影響はない。イラク・バスラ製油所近代化プロジェクトは、いまのところ予備費の範囲内で吸収できている。

円安の影響はどの程度か教えてほしい。	為替感応度は、米ドルが1円変動することで、売上高30億円、粗利益3億円、経常利益4億円の影響が出る見込みである。 工事進行基準による売上計上を行っているので為替変動がストレートに影響しない面もあるため、あくまで目安と考えていただきたい。
中期経営計画で発表した戦略投資の今第2四半期までの進捗状況を教えてほしい。	今年度末までで約200億円の投資を見込んでいる。第2四半期までの実績では数十億円程度である。

2. マーケット環境について

モザンビーク・ロブマ LNG 案件について、一部顧客が事業から撤退するという憶測ニュースが出ていたが、アップデートがあれば教えてほしい。	我々が確認した範囲では、顧客は撤退を否定している。一方、同国の建設地付近は、武装勢力が活発に活動しており、治安状況については注視していく必要があると考えている。
世界的な低・脱炭素化に向けた動きの中で、オイルメジャー等の LNG 投資に対するスタンスは変化しているか。	世界的にエネルギーが低・炭素化に向かう一方で、新興国を中心にエネルギー需要は拡大していく方向にあり、オイルメジャー等も中期的には LNG (天然ガス) を完全に排除することは現実的でないと見ている。但し、カタールの大型 LNG 拡張計画の進展は、LNG 全体の需給バランスに影響する可能性があり、オイルメジャー等も LNG の需給バランスの変化を注視している。
来年度以降の LNG 案件について教えてほしい。	米国キャメロン LNG やフリーポート LNG の拡張、LNG カナダの拡張等複数案件で動きが出始めている。当社も 2022 年度の後半あたりから LNG 案件で関与できる可能性があるかと期待している。

3. 個別事業について

<p>小型モジュール原子力発電（SMR）の注目度が上がってきているが、米国ニュースケール社への出資によって、当社はどのような機会が期待できるか、また出資の狙いを教えてほしい。</p>	<p>当社グループは、原子力分野では放射性廃棄物処理・処分を中心に約 50 年に亘って携わっており、豊富な経験がある。当社が出資したニュースケール社の親会社は米フルア社であり、フルア社とは現在遂行中の LNG カナダなどで協業し非常に良い関係を築いており、SMR も共同で建設を行っていく計画である。</p> <p>ニュースケール社は、中長期的にアジアや中東に SMR を売り込んでいく予定であり、同地域での豊富な EPC 経験を活かし、当社がリーダーとして EPC をリードしていくことが期待されている。</p> <p>また、当社はモジュール工法に先進的な技術と経験を持っており、SMR のモジュール化を実現する際にもその知見を活かすことを期待されている。</p>
<p>国内の医薬分野の体制強化について教えてほしい。</p>	<p>現在、国内の医薬品市場は、ワクチンや抗がん剤など新薬の開発が進み、顧客の設備投資が活発化しており、今後も堅調に推移していくことが見込まれる。将来的にはアジア各国に広がっていく見込みである。グループ内のエンジニアの配置転換や、先日発表した IHI プラントから医薬品製造プラント EPC 事業を譲受する等の対応で体制を強化している。</p>
<p>洋上風力分野の取り組みでアップデートがあれば教えてほしい。</p>	<p>2018 年に洋上風力の専門事業部を新設し、現在数十名体制で、国内外の洋上および陸上風力発電案件の EPC 受注を目指して、FS や基本設計などの事業者向けのサポートを手がけるなどしている。今年度に有望な案件があり、何とか受注につなげていきたい。</p> <p>一般海域における第 1 ラウンド案件では、海外からの大規模調達や輸送、プロジェクトマネジメントの面でゼネコンと協業することで、案件獲得を狙っていく。</p>
<p>長期経営ビジョンで掲げている複合的な都市インフラシステム</p>	<p>現在、複合都市インフラシステムの構成要素である空港や鉄道、廃棄物発電</p>

ムの構築は、日揮グループのプロジェクトマネジメント力などが活かせる分野であると思うが、進捗について教えてほしい。

等の個別のインフラ案件の受注に向けて取り組んでいる。最終的にはスマートシティをはじめとする複合都市インフラ全体のマスタープラン作成などを手掛けられるようにしていきたい。

以 上